第３２回

山口県環境保全型農業フォーラム

あす家族に食べさせるものがない!?

山口県の課題と希望

令和５（2023）年２月26日（日）

１０：００～１６：００

会場　KDDI 維新ホール

（山口市産業拠点施設　山口市小郡令和 1-1）

主催　山口県環境保全型農業推進研究会

山口県有機農業団体連絡協議会

共催：やまぐちの種子を守る会・ヤッタネ！やまぐち

この資料のカラー版は、パソコン
http://ankei.jp/yuji/?n=2543
または左の QR コードにスマホの
カメラをかざしてご覧いただけます

山口県環境保全型農業推進研究会（山口かんぽ研）
会長 木村節郎（百姓・木村）

まだ「限界都市」に暮らしておられるみなさまへ

やまぐち環保研会長・木村節郎

都会では、ゴミとクソにまみれた死人の山が、という光景が見えますか？　そう遠くない光景だと思うのは、僕だけでしょうか？

ウクライナ問題ではっきり炙り出された日本の実状。

ロシアが悪い？　アメリカが悪い？

そんな問題じゃあなくて、自給をせず他人にまかせ乗っかる生活そのものがもう終わりを迎えたのです。

小麦が入って来ない、油が入って来ない、化学肥料が入って来ない、外国からの労働力が入って来ない。いろいろごまかしていただけで、もともと、日本の食糧自給率は５%もなかったのです。

燃料、肥料、農薬、農機具機械の部品や、物流資材、労働力、輸送、保管のエネルギーのほとんどは外国からのもので成り立ってます。そこへもってきて、電気代が上がる、燃料費が上がら、物価が上がる、ガンガン上がる。

頭のいい官僚たちが金銭的補助金を次から次へ考え出すが焼け石に水。現場から聞こえる声は、

「もう田んぼ作るのやめます、牛飼うのやめます、漁師やめます……」の悲鳴。

お金を中心にした思考では、この国の食料調達がどうにもこうにも回りようがないという事態です。

ところがどっこい、休耕田から荒廃地へと向かう田舎にはたらき手が来ないのですが、食糧が確保でき、焚きものが有り、水がある。

過疎・限界集落の名前は、そっくりあなたの暮らす３密・限界都会にお返しします。

動物として生きる事を忘れてしまった人間という生き物。今こそ原点に戻り、動物として生きるヒトというものの暮らしを創っていく事に視点を変えた暮らしに変わって行ける絶好のチャンス到来です。

農家と共に暮す暮ら方へと向かいましょう。

＊＊＊プログラム＊＊＊

9:30　開　場

10:00　**ごあいさつ**　　**山口県環境保全型農業推進研究会 会長　木村節郎**

【基調講演】　10:05～12:00

タイトル：

「 あす家族に食べさせるものがない！？」 ～ 山口県の課題と希望

講　師：鈴木　宣弘（東京大学大学院教授・ 食料安全保障推進財団理事長）

※鈴木先生の新刊書を受付でサイン付きで予約販売します。1000 円です。

12:00**「休憩と昼食」**

12:15 **種子交換会**　　タネをお持ちでない方も、参加できます。

【事例発表】　13:15～15:00

タイトル：**痩せ田の自然栽培でお米１０俵：中野茂樹**（山口かんぼ研理事・長門市在住）

タイトル：**鳥獣害の少ない唐辛子に注目：須田加弥子**（fu do ku kan Bamboo・周南市在住）

タイトル：**耕す子どもたちが未来を創る：片山耕修**（小郡幼稚園延長・山口市在住）

※中野茂樹さんの著書を受付で販売します。ぜひご購入ください。

15:00　**「休　憩」**

15:15　**講師講評**

「やまぐちの種子を守る会」の活動報告と「山口県種苗条例」について

総合討論

16:00　**まとめ・おわりの言葉**

～鈴木宣弘（すずき のぶひろ）先生プロフィール～

- 1958年生まれ。三重県の半農半漁の家で育つ。田植え、稲刈り、海苔摘み、アコヤ貝の掃除、うなぎのシラス獲りなどを手伝いながら育つ。

・東京大学農学部卒。農林水産省入省。15 年ほど勤務した後、学界へ転じる。九州大学農学部助教授、教授を経て、2006 年 9 月から東京大学大学院農学生命科学研究科教授。夏季はコーネル大学客員教授。1995 年、東京大学博士（農学）。博士論文は「生乳市場の不完全競争の実証分析」。専門は農業経済学。
日本学術会議連携会員。2022 年「食料安全保障推進財団」を立ち上げ、理事長。

著書
・『WTO とアメリカ農業』（筑波書房、2003 年）
・『FTA と日本の食料・農業』（筑波書房、2004 年）
・『現代の食料・農業問題――誤解から打開へ』（創森社、2008 年）
・『ここが間違っている！日本の農業問題――農業・食料・TPP の“真”常識』（家の光協会、2013 年）
・『食の戦争 米国の罠に落ちる日本』（文藝春秋、2013 年）
・『悪夢の食卓 TPP 批准・農協解体がもたらす未来』（KADOKAWA 2016 年）
・『農業消滅 農政の失敗がまねく国家存亡の危機』（平凡社新書、2021 年）
・『世界で最初に飢えるのは日本』（講談社+α新書、2022 年）

《メモ》